

<平成30年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

宮城県 蔵王町立遠刈田中学校

Olympic
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会



平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピアン自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピアンはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を受け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

■期 日：平成30年9月7日（金）

■ク ラ ス：2年1組（35名）

■オリンピアン：小塚 崇彦 先生（スケート・フィギュアスケート）【出場オリンピック／バンクーバー大会】



■授業のながれ：運動の時間（3時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



・自己紹介の後、オリンピックバリューについて「エクセレンス＝卓越、全力で頑張ること」「フレンドシップ＝友情、仲間」「リスペクト＝尊重、ルールを守ること、感謝すること」と説明し、オリンピアンはこの3つの言葉を大切にしており、これからの運動の時間には皆もこの3つの言葉を意識して臨んでほしいと伝える。

2. 準備体操



3. 主運動



・大縄跳びを全2回実施。フィギュアスケートのショート及びフリープログラムに習い、2回の合計得点で競った。
・2回目実施前には「過去の自分を超越してほしい」「協力して、息を合わせて臨んでほしい」、また他のチームの跳び方も参考にしながら良い方法を考えてほしいと伝えた。
・最後に、フィギュアスケートのエキシビションにちなみ、全員で大跳びを実施。選択した跳び方が上手いかず、途中から8の字跳びに変更。終了後、小塚先生から、作戦が上手くいかなかった時に、臨機応変に対応したことはとても重要だと拍手を送った。

4. まとめ



・全力で取り組む、皆で協力する、お互いの話を聞く等、皆が「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」を意識し、感じられたのではないかと。チーム戦では1回目より2回目の方が全チーム記録が伸びていたように、練習等にしっかりと取り組むことが過去の自分を超越することにつながると伝え、授業を終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・オリンピックシンボルマークを描き、5つの輪と色について、またクーベルタンが目指した3つの理想と「スポーツを通じてより良い世界にしたい」という考えを伝え、この理想を叶えるためにオリンピックを復活させたと説明。
- ・エクセレンス:「卓越」「成功と失敗」「頑張る」、フレンドシップ:「友情」「チームワーク」、リスペクト:「敬意/尊重」「ルールを守る」について、運動の時間を振り返り、皆も3つのオリンピックバリューを感じることができたのではないかと伝える。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問①：運動の時間を振り返り、考えたことや感じたことをオリンピックバリューに当てはめて書き出してみよう(個人ワーク)1名の生徒を指名し、発表。最後までベストを尽くす(エクセレンス)、ハイタッチをした(フレンドシップ)、ルールの中で最善を尽くすことができた(リスペクト)
- 発問②：文化祭での合唱をより良いものにするために意識したいことをオリンピックバリューに当てはめて書き出してみよう。各班代表者1名が前に出て発表。
毎日一回は練習をする、歌詞や音程を間違えずに歌う(エクセレンス)、ハイタッチをする、友達を信じる(フレンドシップ)、緊張してる子に話しかける、口バクをしない(リスペクト)

4. まとめ



- ・クーベルタンが目指した理想は自己を知ること、ルールを知ることによってルールを守ることができる。自己を律することで諦めずに次に進むことができる、自己に打ち勝つことによってさらに向上することができる。それを通じて友達との友情を育んだり、周りの人と信頼関係を築くことができる。
- ・オリンピックでメダルを獲ることも大切だが、メダルを獲ることだけが全てではない。クーベルタンが目指した理想をオリンピックを目指す過程で感じる事が重要で、皆も今日学んだオリンピックバリューを忘れずに文化祭での合唱を頑張してほしいと伝え、授業終了。



■ 集合写真

2年1組



■ 記念品贈呈

2年1組



■ 修了証贈呈

